



するが とみお
駿河 富夫さん
 (稲毛田)

変革する町づくりを期待

ここに住んで三十数年、刻々と変わる町づくりがここに来て大きな「うねり」を感じています。LRTの導入、芳賀第2工業団地の促進、祖陽が丘の造成分譲等々、芳賀町に大きな変革が見えてきました。それぞれの項目で今までにない事業が進むなか、これからの芳賀町の長期展望を見据えて、どのような姿に進んでいくかが重要に思います。「町民の町民による町民のため」の政治姿勢が問われていくことでしょう。

私は今、最大の関心事項は、定住者促進事業の強力展開です。芳賀町は昔、2万1千人もいたと聞きました。将来は、町から市に向かっていくような大きな夢に向かって、町づくりが一步一步着実に進むことを期待しています。子供の未来、夢のある芳賀町を町民一体となり考えていく、また、政治力を希望しています。芳賀町には素晴らしい人材がたくさんいます。その知恵と知識を生かしていければと思います。



たかはし としお
高橋 利夫さん
 (芳志戸)

持続可能な財政と町政の充実化を目指して

現在、芳賀町は県内トップの財政力のある町のようなのですが、まだ、将来にわたって持続可能な財政ではないようです。そこで、町では持続可能な財政にするために、今秋より、本田技術研究所南側に産業団地を造り、そこに優良企業を誘致して、さらに税収アップを図り持続可能な財政基盤をつくるようです。こうした安定基盤のなかで、今まで以上に、各種産業のさらなる発展と、社会福祉、学校教育、子育て支援の充実、また住宅面では住宅団地の造成と分譲、そして交通面ではただ今、宇都宮市と工事が行われているLRTを中心とした公共交通の利便性を高め、通勤、通学、また、病院の通院など子どもからお年寄りまでが便利に利用できるような、芳賀町にしていきたいと思います。町執行部、議会議員の方々には一層のご尽力をお願いいたします。



しおた ひでき
塩田 秀樹さん
 (西水沼)

高齢化社会について

令和新時代になって3ヶ月が経過して次の世代について考えてみました。今、日本が直面する現実に労働人口の減少があります。いわゆる団塊の世代の出生数は805万人に対して現在は284万人と、この間に出生数が65%も減少しています。かつ平均寿命の推移をみても、100歳時代といわれています。間もなく65%も減少した若者が、高齢者を支える時代が来ます。芳賀町においても例外ではありません。そのため、地方においてはコンパクトシティやスモールコミュニティーの考えが重要だと考えています。これから先、財政は緩やかに厳しくなると予想されます。道路や下水道等の維持管理費の負担が増していきます。住む場所をある程度集約し、コスパ(費用対効果)に強いまちづくり、また、農業に関しては、集約することで作業やコストにメリットが期待できます。次の世代に負のつけを回さないようにしたいものです。